

第410回定例研究報告

中東から見たアジア —その重要性と相互依存関係—

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
中東研究センター
田中 浩一郎

2012年11月5日

中東における域内需要の増大

- 発電・造水用
 - 原油、天然ガス ⇒ 原油、天然ガス、石炭、原子力、再生可能エネルギー
- 輸送用
 - 石油製品 ⇒ 石油製品、天然ガス(CNG)
- 供給原料用
 - 天然ガス ⇒ 天然ガス
- 上流開発の拡大による、域内供給体制の強化
 - 伝統的なソリューション
- 適正な価格体系の導入による、消費抑制策の推進
 - 「アラブの春」による、政治的・社会的な制約要因の増加
- 省エネ技術導入と、省エネ意識の普及

アジアと中東を結ぶ「糸」

- 他地域では、エネルギー生産地と消費地が接近
- アジアと中東：供給国と消費国の地理的乖離
 - 東アフリカに次いで長い移送距離
 - パイプラインの不在 ⇒ シーレーン確保の重要性
- 「アラブの春」の影響は僅少
 - 主要な産油・産ガス国の生産体制は維持
 - アジア側では、政経分離意識が主流
 - 資源ナショナリズムに対する刺激材料を提供
- 相互依存関係の模索
 - 「重層的関係」の構築：産業育成、人材開発、技術支援
⇔ エネルギー安定供給、投資
 - 安全保障へのコミットメント拡大